

平成30年度

地域力を生かした産業の創造・育成
～地域産業の振興に向けた取組を紹介します。～

青森県商工労働部地域産業課

<経営支援グループ>

- 中小企業の経営相談・経営診断
- 中小企業の総合支援
- 自動車関連産業の振興

《中小企業の診断①》

高度化事業に係る診断

住工混在の解消や街の活性化を目的とする中小企業等の集団化、集積整備などの実施にあたり、中小企業基盤整備機構と一体になって貸付及び運営に係る診断助言を行っています。

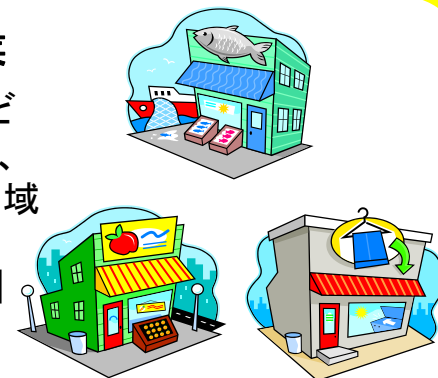
集団化事業

市街地などに散在する工場や店舗などを、生産性や効率性向上、異業種との連携などのため、一つの区域や建物にまとまって移転するもの【29年度診断実績5件】



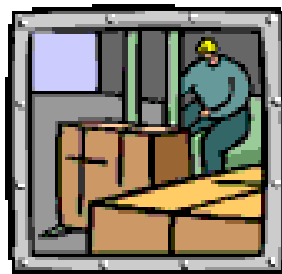
集積区域整備事業

商店街もしくは工場などが集積している区域で、建物の建て替えなど区域全体を整備するもの【29年度診断実績5件】



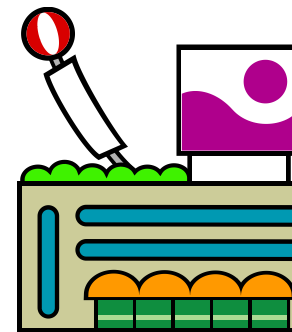
共同施設事業

共同で利用・経営する加工施設や研究開発施設、物流センター、商店街のアーケード・カラー舗装、駐車場などを整備するもの【29年度診断実績1件】



施設集約化事業

店舗が集まりショッピングセンターを、また工場を集約化して共同工場などを整備するもの【29年度診断実績3件】



《中小企業の診断②》

小規模企業者等設備導入資金の貸付診断と事後の助言

「小規模中小企業者等設備導入資金助成法」に基づく貸付を受けようとする中小企業者を対象にした診断や貸付を受けた中小企業者を対象とした事後の助言を行っています。

【平成29年度実績】 事後助言4件



戦略的経営展開マニュアルの作成・配布

企業が抱える様々な経営課題を解決し、新たな市場開拓等の戦略的な経営展開を図るための支援の一環として「戦略的経営展開マニュアル」の作成と県内中小企業者への配布を行っています。

【平成29年度】 IT活用事例集～生産性向上を目指して～

《中小企業の診断③》

生産性向上による労働力減少対策事業(H29~30)

今後、人口減少社会が進展していくに伴い、労働力の減少が見込まれ、県内の生産活動の縮小が懸念されています。

産業人財不足に対応するため、「人財」の士気・スキルを向上させることで県内企業のパフォーマンスを最大化させるとともに、経営者、従業員、工場全体それぞれの生産性を向上する施策を展開します。

【現状と課題】

労働力の減少を補うため、県内企業の生産性向上が求められている。

本県企業は、

- 分野に関わらず人財の確保が困難。
- 労働生産性の全国に対する水準が70%程度と低い。
- 労働生産性の向上のため従業員の士気・スキル向上が必要。



一方で、本県企業は、

- 生産性向上の必要性・課題・手法の理解・能力が不足。
- 多能工化・技能熟練化のための他分野の技術・先進的な技術の習得機会への参加が困難。

【事業内容】

【取組1】経営者による生産性向上

(地域産業課・産業立地推進課)

生産性向上のための経営者・管理者向け意識改革、ノウハウ習得研修の実施

- (1) 生産改善セミナー (地域産業課/21財団委託)
- (2) 先進技術等習得研修 (産業立地推進課/県工業会委託)

【取組2】従業員による生産性向上

(産業立地推進課)

多能工化・技能熟練化のための従業員向け研修の受講機会の提供

- (1) 多能工・熟練技術者養成研修 (県工業会+八戸IP委託)
- (2) 先進・高度技術人財育成事業費補助

【取組3】工場全体の生産性向上

(地域産業課)

少量多品種生産化、QCD能力向上、作業効率化等のための工場の実態に即した現場指導・診断

生産現場で、専門のスキルを有する講師による指導を実施
内容：工程分析、動作研究、品質管理、5S等

【取組4】人財の士気・スキル向上(H30拡充)

(地域産業課)

「人財」の士気・スキルを高め上記取組のパフォーマンスを最大化させるための診断及び普及啓発

従業員意識調査等の経営診断(モラールサーベイ)及び成果報告会を実施

【事業効果】

「人財」の士気・スキル向上によるパフォーマンスの最大化



◆「経営者」のリーダーシップに基づく生産性の向上

◆「従業員」の1人あたり労働生産性の向上

◆「工場」の現場実態に即した生産性の向上



産業人財不足の解消



人口減少の克服

《中小企業の支援①》

経営革新計画の承認制度

中小企業新事業活動促進法に基づき、中小企業者が作成した経営革新計画の作成支援や計画に対する承認を行っています。【承認件数 平成28年度15件、平成29年度9件】

【平成28年度】

- | | | |
|------------------|--------------|---------------|
| ①株式会社ひらの洋服店 | ⑥有限会社二階堂 | ⑪株式会社高昇興業 |
| ②太洋舎商事株式会社 | ⑦有限会社HIG | ⑫有限会社カメラのみなみや |
| ③北日本産業株式会社 | ⑧弘前ガス株式会社 | ⑬やまはた整骨院 山端祐樹 |
| ④株式会社あおりデンタルサポート | ⑨株式会社スーパーストア | ⑭株式会社テクトリー |
| ⑤有限会社秋田商店 | ⑩ミリオン株式会社 | ⑮株式会社三上材木店 |

【平成29年度】

- | | |
|------------|--------------|
| ①株式会社クラフト | ⑥株式会社スズキ自販 |
| ②株式会社若山経営 | ⑦友輪館野辺地 |
| ③株式会社内海青果 | ⑧有限会社オートアリーナ |
| ④北日本産業株式会社 | ⑨株式会社コア |
| ⑤有限会社境谷自動車 | |



- ・商工会、21財団、県等の経営革新計画の作成支援
- ・県の承認に基づく低利融資制度等の活用により中小企業の活性化と雇用の拡大を図る

《中小企業の支援②》

基金による中小企業者等への支援

基金を活用し、青森県が有する地域資源や人財、ローカルテクノロジー等を活かして産業の振興と雇用の創出を図ります。



ブナコを活用したスピーカー

21あおり未来チャレンジ助成事業

- 創業・中小企業者等の経営革新等の新たな取組を支援します。
- H19～29は「あおり元気企業チャレンジ助成事業」として実施

21あおり
未来チャレ
レンジ助成事
業

(公財)21あおり
産業総合支援センター



十和田おいらせ餃子

あおり農商工連携助成事業

- 中小企業者等と農林漁業者が連携し、県産農林水産物等を活用した商品開発などの取組を支援します。
- H21～H29の実績(累計) 120件 約2.6億円

意欲ある創業者・
中小企業者に
対する助成・
投資・ハンズオン
による支援

あおり
農商工連携
助成事業

(地独)青森県
産業技術センター



あおりクリエイティブファンド

- 株式上場を志向する成長企業等に対し、投資資金を提供するとともに、関係機関が一丸となったハンズオン支援を行います。
- H19～H29の実績(累計) 23件 約13億円

あおり
クリエイ
ティブ
ファンド

フューチャーベンチャー
キャピタル(株)

《中小企業の支援③》

ワンストップサービス

県では、公益財団21あおもり産業総合支援センターを通じて、創業、経営革新、取引推進及び小売商業支援など、中小企業に係る一貫した支援を総合的に行っています。

総合相談

中小企業の経営に関する総合相談窓口として、専門的知見等を有するコーディネーターが無料で相談に応じています。
【平成29年度実績】 相談件数 4,674件

専門家派遣

中小企業診断士、税理士、デザイナー、ITコーディネータなどの経験豊富な民間の専門家を、中小企業者等からの派遣要請を受けて現地に派遣し、必要なアドバイスを行います。
【平成29年度実績】 派遣企業数 8社(延べ24日)

取引あっせん

県内中小企業の取引を推進するため、あっせんや商談会を開催しています。
【平成29年度実績】 あっせん紹介件数 88件

《中小企業の支援④》

県では、ビジネスチャンスの獲得を契機とした本県中小企業の更なる成長を促進するため、21財団にビジネスサポートステーションを設置し、商いの出口である「売ること」に対する支援の充実・強化を図っています。

ビジネスサポートステーション

創業～新商品開発支援

県内企業の販路開拓、取引機会の拡大
～ “出口支援の強化”へ～

経営全般に関する支援

よろず支援拠点

コーディネーター・サブコーディネーター(7名)

県コーディネーター(6名)

創業に関する支援

インキュベーションマネージャー(3名)

〈個別プロジェクト支援〉

産学官のマッチング・連携等支援

オープンイノベーション推進コーディネーター(2名)

ものづくり企業の現場力強化支援

現場力強化アドバイザー(1名)

販路アドバイザー
(2名)

広域専門調査員
(1名)

各種商談会の
開催、出展

大手企業への
売り込み

☆ ビジネスマッチング(外部委託)

(対象者) 県内に本社又は事業所を有する中小企業者

① 販路開拓に係る様々なネットワークを有する法人を通じた、首都圏企業等との個別ビジネスマッチングの機会を提供。

② 首都圏からバイヤーを招聘し個別商談会を実施。

(平成29年度の例)

- ・(株)高島屋
- ・(株)渥美フーズ・タムラ
- ・(株)ジャポニック・ベニースーパー
- ・(株)星野リゾート(星野リゾート青森屋)

☆ 販路開拓、取引拡大に対する助成

〈助 成 額〉 上限500千円(補助率1/2)

〈対象経費〉 商談会出展経費(ブース料、商品等送料、交通費等)、販売を目的としたHP立上げ経費、首都圏等への新規営業拠点設置初期費用・賃料等

県では、自動車関連産業集積に向けて、地場企業の支援と積極的な企業誘致に取り組むとともに、必要な人材の育成に取り組んでいくため、平成20年1月に「青森県自動車関連産業振興戦略」を策定しました。

1 地場企業の育成・強化

- (1)支援体制の強化
 (2)経営力の強化
 (3)取引拡大
 (4)技術力の強化
- 企業のスキルアップを支援する専門人材
 ・北東北3県アドバイザー
 ・青森県ものづくり産業振興アドバイザー

2 企業誘致活動の強化

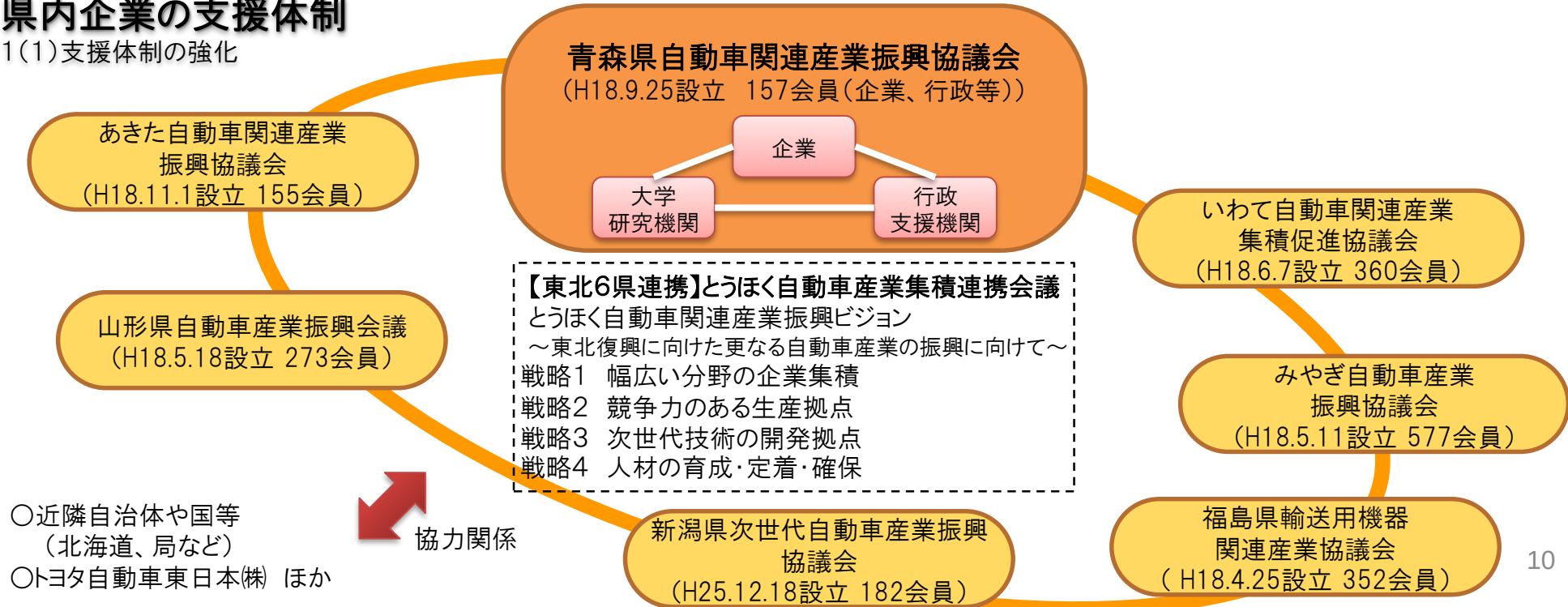
- (1)戦略的な企業誘致の推進
 (2)新たな環境社会形成に対応した企業誘致
- 【ターゲット産業】** 自動車、農工食品、情報通信、環境・エネルギー、医療・健康・福祉

3 人材の育成・強化

- (1)基盤技術者の育成
 (2)既存人材育成事業を更に自動車関連産業人材育成向けに活用・強化

県内企業の支援体制

1(1)支援体制の強化



○近隣自治体や国等
 （北海道、局など）
 ○トヨタ自動車東日本(株) ほか

とうほく・北海道自動車関連技術展示商談会(とうほく自動車産業集積連携会議による連携事業)

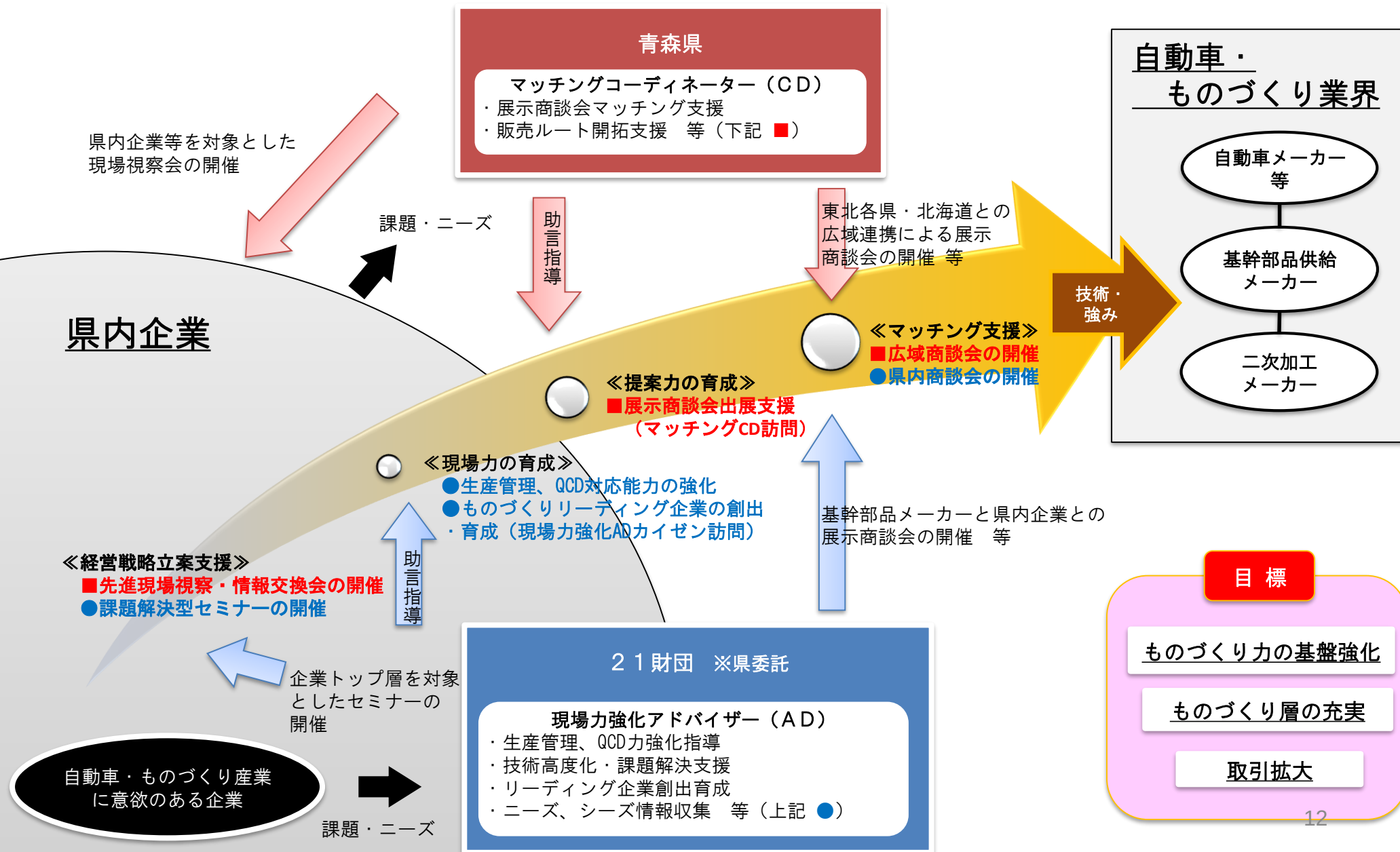
○ とうほく・北海道自動車関連技術展示商談会

東海地区の自動車関連メーカー等を対象に、取引促進や協力関係の構築を図るため、東北7県の各協議会により構成される「とうほく自動車産業集積連携会議」および北海道自動車産業集積促進協議会が主催し、企業の「新技術・新工法」等の提案・アピールを行う展示商談会を開催してきています。

- ・日時 平成30年2月1日(木)～2日(金)
- ・場所 トヨタ自動車(株)本社 本館ホールホワイエ (愛知県豊田市)
- ・内容 「樹脂成形」「鋳造・鍛造」「プレス」「表面処理」などの新技術・新工法の提案
- ・本県参加企業 5社(東北7県・北海道で103社)



年度	開催年月日	開催名称	開催場所	県参加企業数 (全体)	県参加企業名
19	平成19年9月3日～4日	とうほく自動車関連技術展示商談会	刈谷市産業振興センター	4(99)	高周波鋳造(株)、エプソンアトミックス(株)、 (株)ワーロック、(株)青森テクニ
20	平成20年11月17日～18日	とうほく自動車関連技術展示商談会	刈谷市産業振興センター	7(89)	エプソンアトミックス(株)、(株)ワーロック、(株)青 森テクニ、(株)青森フジクラ金矢、アンデス電 気(株)、マルイ鍍金工業(株)東北工場
21	平成21年10月27日～28日	とうほく6県新技術・新工法展示商談会	トヨタ自動車本社(豊田市)	3(38)	エプソンアトミックス(株)、(株)青森フジクラ金矢、 (株)遠山工業黒石工場
22	平成22年10月27日～28日	とうほく6県自動車関連技術展示商談会	刈谷市産業振興センター	2(58)	(株)青森テクニ、(株)遠山工業黒石工場
23	平成24年1月19日～20日	とうほく6県新技術・新工法展示商談会	トヨタ自動車本社(豊田市)	2(43)	エプソンアトミックス(株)、(株)遠山工業黒石工場
24	平成25年1月24日～25日	とうほく6県自動車関連技術展示商談会	刈谷市産業振興センター	3(70)	(株)遠山工業黒石工場、(株)コアライン、多摩川精 機(株)八戸事業所
25	平成26年1月30日～31日	とうほく6県新技術・新工法展示商談会	トヨタ自動車本社(豊田市)	5(40)	(株)アドバネクス弘前工場、(株)ソルテック、竜飛精工 (有)、(株)テクニカル、(株)ブルーマウステクノロジー
26	平成27年2月5日～6日	とうほく・北海道自動車関連技術展示商 談会	刈谷市産業振興センター	6(80)	(株)アドバネクス弘前工場、(有)外ウ電子、(株)遠山 工業黒石工場、エコム(株)、北日本鍍金(株)、(有) forte
27	平成28年2月4日～5日	とうほく・北海道新技術・新工法展示商 談会	トヨタ自動車本社(豊田市)	8(102)	(株)アドバネクス青森工場、(有)外ウ電子、(株)青森 テクニ、(株)ソルテック、日本ハスルモーター(株)岩木工場、 テストデータシステム(株)、(株)フォルテ、(株)抗菌研究所
28	平成29年2月2日～3日	とうほく・北海道自動車関連技術展示商 談会	刈谷市産業振興センター	6(82)	(株)アドバネクス青森工場、(有)外ウ電子、(株)ソルテッ ク、日本ハスルモーター(株)岩木工場、(株)フォルテ、アイ カーボン(株)
29	平成30年2月1日～2日	とうほく・北海道新技術・新工法展示商 談会	トヨタ自動車本社(豊田市)	5(103)	(株)アドバネクス青森工場、アイカーボン(株)、(株)フォルテ、 並木精密宝石(株)、トヨフレックス(株)



<創業支援グループ>

○創業・起業支援の推進(これまでの取組、H30年度の実施)

○円滑な事業承継の推進(H30年度の実施)

○クラウドファンディングの普及推進(H30年度の実施)

1 創業支援拠点の整備

(1) 県の主体的な取組

- ・平成18年度 弘前市に創業支援拠点「夢クリエイ工房」を設置
- ・平成19年度 青森市に創業支援拠点「創業チャレンジクラブ」を設置
- ・平成20年度 八戸市に創業支援拠点「アントレプレナー情報ステーション」を八戸市と共同設置
- ・平成27年度 五所川原市、三沢市及びむつ市に創業支援拠点「創業相談ルーム」を各市と共同設置
- ・平成28年度 黒石市及び十和田市に創業支援拠点「創業相談ルーム」を各市と共同設置

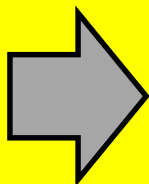


(2) 地域の主体的な取組を支援

- ・平成22～23年度 「アントレプレナー情報ステーション」の八戸市単独設置に向けた運営費補助
- ・平成24～25年度 夢クリエイ工房の代替機能を受継ぐ、弘前市の創業支援拠点「ひろさきビジネス支援センター」等への運営費補助
- ・平成24年度 青森市単独の創業支援拠点「起業・創業等相談ルーム」のスタッフ人材育成



成果



設置数 8市

(青森市、弘前市、八戸市、黒石市、
五所川原市、三沢市、むつ市、十和田市)
(H30.3月末現在)

新規利用者数 2,357名
(H18～H30.3末)

2 創業支援の風土づくり

(1) 創業・起業支援制度説明会・創業ワンポイントセミナーの開催

- ・ 創業希望者の掘り起こし等のため、関係機関と連携し、県内各所で創業支援制度の説明会と創業の基本的知識の習得を目指したワンポイントセミナーの開催。



(2) 創業・起業実践セミナー、UIJターン創業セミナー・相談会の実施

- ・ 業態・分野別テーマでの創業セミナーの開催。また首都圏等で経験を積んだ方を対象にUIJターン創業セミナー・相談会を開催。

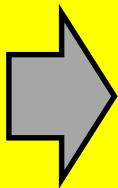


(3) 未来の起業家(高校生・大学生)の育成

- ・ 長期的視点で創業意識を醸成するため、また中・高・大学生を対象とした起業家による講演会を開催。



成果



説明・相談会参加者数
1,519名(H21～H29)

セミナー等参加者数
126名(H29)

起業家講演会参加者数
10校975名(H29)

3 支援の人財の育成強化

(1) インキュベーション・マネジャー(IM)育成支援

- ・ 商工関係機関の職員も対象としたIM養成研修の実施や首都圏での研修受講を支援。



(2) IMの連携促進に向けた協議会の設置

- ・ 県内の創業支援活動の連携促進、スキルアップのための団体、青森県インキュベーション・マネジャーネットワーク協議会の設置(H24)。



(3) IMのスキルアップに向けた研修会の開催

- ・ 県内の関係機関に所属しているIM等を対象に、県内外のIMや専門家を講師に迎え、創業に関する地域習得と情報を共有するための研修会を実施。

成果



県内IMの人数
48名(H29)

青森県インキュベーション・マネジャー
ネットワーク協議会設立(H24.7)

スキルアップ研修参加者数
119名(H29)

4 あおもり起業家養成研修事業

(1) あおもり起業家養成研修

創業・起業意識の醸成やビジネスプラン作成のノウハウ習得のため、創業支援の専門家(インキュベーション・マネジャー)によるビジネスプラン作成講座を実施。

- ①研修開催場所 【27年度】青森市、八戸市、弘前市 【28年度】青森市、八戸市、弘前市、三沢市
【29年度】黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市
- ②研修参加者 【27年度】58名(全会場) 【28年度】59名(全会場)
【29年度】55名(全会場)

5 起業後のフォローアップ

(1) 創業・起業地域交流会

起業家(経営者)と創業希望者が交流し、情報共有や新しいネットワークづくりを行うことで、起業家同士の仲間づくりや販路開拓に繋げていくことを目的とした地域交流会の実施。

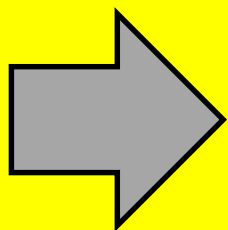
- ①開催場所 【29年度】青森市、黒石市、五所川原市、三沢市
- ②参加者 【29年度】87名(全会場)

(2) 起業家フォローアップ

平成18年度から平成27年度までの間において、県内創業支援拠点等を利用した創業者238名を対象に現在の状況や創業後の課題等を把握するためのアンケート調査を実施。

6 取組の成果

これまで県の創業支援拠点や事業を活用して創業に至った人数



477名 (H18～H30.3末)



創業者事例

SMILE & SPOON



地元の食材を使った安全・安心な食事の提供、食生活改善のための料理教室の開催及び菓子等の販売

さくらアカデミー



理想の学習環境をコンセプトとした、成績向上と夢実現を追求する学習塾の経営

(株)ミライフ



家庭の風呂に入るのが困難な方のために、介護保険制度を利用した訪問入浴介護サービスの提供

たこまさ



高校生や近隣職域の中食需要に対応した路面店での店頭販売によるたこ焼き店の経営

《 創業・起業支援の推進 》

平成30年度の取組

《 創業・起業支援推進力強化事業費 》 予算額：32,930千円

体験・共感型の意識醸成や地域拠点のプラットフォーム機能強化に取り組み、地域支援体制の維持・確立と創業・起業の一層の増加、魅力あふれる多様な仕事づくりを推進する。また、青森県型地域共生社会の実現を見据えたソーシャルビジネス起業モデルの普及啓発や、モノづくり分野での起業気運の醸成に取り組み、地域経済への波及効果拡大を図る。

現 状 と 課 題

〔これまで〕地域支援体制づくりの推進



〔取組成果〕▶ 県内課題等

- ・市町村等の主体的な取組が進行・活発化
▶ **意識醸成**や**実践編**の充実・拡充
- ・関係機関の相互連携が進行・強化
▶ **民間事業者**の参画・連携を促進
- ・支援拠点が県内全域へ拡充
▶ 維持・確立に向けた**追い風支援**
- ・**2025年問題対応**▶ 創業面のアプローチ
- ・輩出事例が増加＝実現性・多様性が向上
▶ **波及効果の拡大を目指す**

事 業 内 容

取組1 体験・共感型 意識醸成事業(5,381千円)

- (1)若者・女性テストマーケティングの実施
拠点利用者や輩出創業者を出展対象としたフェアの開催
- (2)シニア層に対する起業意識啓発セミナーの開催
- (3)UIJターン創業PR事業
事例集の策定、首都圏イベントへのUターン創業者派遣
- (4)起業家座談会及び合同支援制度説明会の開催
地元起業家による事例発表等を開催(関係機関等との連携)

取組2 支援プラットフォーム機能強化事業(26,464千円)

- (1)民間事業者メンターの顕在化
創業支援に前向きな事業者のデータベース化・情報発信、
先輩起業家ツアー・交流会の開催、推進役(CD)配置
- (2)地域インキュベーション体制の確立
21財団への専門家配置(県外での伴走型支援や相談
サービスへの派遣)、若世代専門家の養成を実施

取組3 共生社会対応 起業モデル普及啓発事業(545千円)

- (1)生活産業ビジネス起業モデルの普及啓発セミナーの開催

取組4 モノづくり起業 気運醸成事業(540千円)

- (1)起業シーズの調査・見える化(リーフレットの作成)

事 業 効 果

潜在層の掘り起し・気運醸成

- ・域内での出会い・交流が増加
- ・世代・業種別のネットワーク構築
- ・移住・定住の実現手法として、「創業・起業」の認識が向上

支援の輪の拡大・強化

- ・民間事業者(経営者や先輩起業家等)の参画促進、新たなネットワークや支援フェーズの構築
▶ **官民協同型の起業エコシステム**

地域支援体制の維持・発展

青森県型地域共生社会の実現

- 多様な仕事づくり
- 雇用の創出・拡大
- 人口減少克服
- 地域経済の活性化

《 円滑な事業承継の推進 》

平成30年度の実施

事業承継円滑化支援事業費

②95,553千円

③05,222千円

担当課：地域産業課
創業支援G(内線3661)

【H30戦略プロジェクト】
人口減少克服プロジェクト

商工団体等との連携のもと、後継者不在の企業を受け手(役員・従業員、起業家、M&A活用により第三者等)に円滑に事業承継し、事業所の減少に歯止めをかけることで、県内の雇用や地域経済の維持・振興を図る。

【現状・課題】

①県内事業所数の減少

- ・事業所数：①67,082 所→②60,866所
- ・従業員数：①544,757人→②542,495人
- ・人 口：①1,423千人→②1,321千人

出典：総務省「事業所・企業統計調査①②」
「経済センサス①②」「人口推計①②」

②代表者が高齢の企業でも後継者不在

代表者世代別では、80歳代で約3割、70歳代で約4割、60歳代で約5割が後継者不在。

(出典：TDB：青森県内企業の後継者問題に関する実態調査2014)

③国の取組を受けて、本県も事業承継に係る意識啓発及び青森県事業引継ぎ支援センターの認知度向上が必要

県内の雇用や地域経済を維持するためには、事業承継を円滑に行い、後継者不在が理由の廃業者数を減らすことが急務

【事業内容】

【取組1】後継者不在企業の把握・フォローアップ

(②92,349千円、③02,349千円)

- (1)後継者不在企業の調査
後継者不在企業のヒアリング調査、事業承継準備状況の段階に応じた情報提供等の支援の実施。(調査対象：590件)
- (2)フォローアップセミナー・相談会の開催
調査で明らかになった事業承継を希望する企業を対象に、専門家によるセミナー及び個別相談会を開催。(10地区×1回)

【取組2】「受け皿」の醸成(②91,760千円、③01,760千円)

- (1)後継者・受け手企業育成セミナーの開催
若手経営者や商工会・商工会議所青年部、起業希望者等を対象に事業承継による経営拡大・異業種参入・起業の事例紹介等に係るセミナーを開催。(6地区×1回)

【取組3】支援体制の強化(②91,444千円、③01,113千円)

- (1)支援機関情報交換会の開催
各機関の取組や県内外支援事例の情報共有等を実施(1地区×2回)
- (2)支援機関担当者等専門研修の開催
経営指導員、税理士、金融機関窓口担当者等を対象に、県外講師による事業承継の知識やノウハウ習得に係る講演等を実施(6地区×1回)

【事業効果】

【効果①】

青森県事業引継ぎ支援センターの事業引継ぎ支援データベース登録件数(後継者不在企業+受け手)の増加による円滑な事業承継

【効果②】

関係機関の連携による事業承継支援体制の強化



・県内事業所数の減少に歯止め



・雇用及び地域経済の維持・振興

《 クラウドファンディングの普及推進 》

平成30年度の取組

あおりクラウドファンディング推進事業費（²⁹6,201千円、³⁰6,201千円）

【事業概要】購入型のクラウドファンディングを運営する民間事業者と連携し、起業者、中小企業者による地域活性化に資する魅力的なプロジェクトについて、県内外の応援者から資金調達を行う事例を創出し、クラウドファンディングの普及を推進する。

【現状・課題】

起業者、中小企業者による新規性のある魅力的な事業に対する資金調達の手段が限られている。

- ・金融機関等は事業者の財務状況や担保、これまでの実績を重視
- ・株式市場等からの直接金融による資金調達も困難



新たな資金調達の手法として、インターネットで不特定多数から資金を集める「クラウドファンディング」が注目されている。

【事業内容】

○クラウドファンディングの活用によるプロジェクト支援（²⁹6,201千円、³⁰6,201千円）

①実施方法

クラウドファンディング事業者に対する委託事業として実施する。

②業務内容

- ・クラウドファンディングの周知
県内中小企業者等に対し、クラウドファンディングを周知するセミナー等を実施
- ・プロジェクトの募集・選定
県内中小企業者等から地域活性化に資する魅力的なプロジェクトを募集、選定
- ・支援金の募集・提供
選定されたプロジェクトについて購入型のクラウドファンディングにより支援金を募集し、目標額を達成した場合にプロジェクト実施者に提供
- ・プロジェクトのフォローアップ
プロジェクトのフォローアップ支援を継続的に実施

【事業効果】

財務状況や担保の有無、実績等に関わらずプロジェクトの内容次第で資金調達が可能に



新たなチャレンジがしやすい環境が整備



**起業など働き方の多様化
人口減少の克服**

さらに、

プロジェクトの支援を通じた青森ファンの獲得

《 クラウドファンディングの普及推進 》

平成29年度の取組

あおもりクラウドファンディング推進事業費

(6,201千円)

【事業概要】

購入型のクラウドファンディングを運営する民間事業者と連携し、起業者、中小企業者による地域活性化に資する魅力的なプロジェクトについて、県内外の応援者から資金調達を行う事例を創出し、クラウドファンディングの普及を推進する。

【現状・課題】

起業者、中小企業者による新規性のある魅力的な事業に対する資金調達の手段が限られている。

- ・金融機関等は事業者の財務状況や担保、これまでの実績を重視
- ・株式市場等からの直接金融による資金調達も困難



新たな資金調達の手法として、インターネットで不特定多数から資金を集める「クラウドファンディング」が注目されている。

【事業内容】

○クラウドファンディングの活用によるプロジェクト支援

①実施方法

クラウドファンディング事業者に対する委託事業として実施する。

②業務内容

- ・クラウドファンディングの周知
県内中小企業者等に対し、クラウドファンディングを周知するセミナー等を実施
- ・プロジェクトの募集・選定
県内中小企業者等から地域活性化に資する魅力的なプロジェクトを募集、選定
- ・支援金の募集・提供
選定されたプロジェクトについて購入型のクラウドファンディングにより支援金を募集し、目標額を達成した場合にプロジェクト実施者に提供
- ・プロジェクトのフォローアップ
プロジェクトのフォローアップ支援を継続的に実施

【事業効果】

財務状況や担保の有無、実績等に関わらずプロジェクトの内容次第で資金調達が可能に



新たなチャレンジがしやすい環境が整備



**起業など働き方の多様化
人口減少の克服**

さらに、

プロジェクトの支援を通じた青森ファンの獲得

<地域資源活用推進グループ>

- 農商工連携による産業振興
- 地域資源の活用による産業振興
- 中小企業の販路拡大の支援
- 伝統工芸産業の振興
- 中小企業地域資源活用プログラムによる支援

○ 地域資源活用推進グループのミッション

地域間競争を勝ち抜き、外貨を獲得していくためには、本県の強みを生かし、農林水産物をはじめとする優れた地域資源を最大限に活用した新たな取組を促進していく必要があることから、農商工連携の推進をはじめ、豊富な地域資源を活用した新商品開発及び販路開拓などの支援を通じて、地域産業の振興と魅力あふれる「しごとづくり」につなげること。

- 中小企業地域資源活用促進法
- 地域資源バリュー・イノベーションモデル構築推進事業（重点・新規）
 - ・ビジネスモデルの企画、提案活動など
- 発酵技術を活用した産業振興事業（重点・新規）
 - ・ビジネスモデルの調査研究など
- 健康志向による県産スイーツ付加価値向上事業（重点（ベンチャー）・新規）
 - ・セミナーの設置・運営など



地域資源 の活用推進



農商工連携 の推進

- 「あおもり農商工連携推進プラン」（H29.2）の推進
- 農商工連携成長産業化支援事業（一般政策・継続）
 - ・農商工連携推進セミナー
 - ・専門家派遣制度
 - ・農業機器展における青森県ブース出展

魅力あふれる 仕事づくり

販路開拓の支援



伝統工芸産業 の振興



- 「あおもり工芸品産業振興事業」（重点・新規）
 - ・消費者を対象とした取組
本県工芸品の価値と魅力を発信する企画展を開催
 - ・バイヤーを対象とした取組
首都圏で開催される国際的な見本市に青森県ブースを出展

《農商工連携による産業振興》

あおもり農工ベストミックス新産業創出構想（平成18年3月策定）

基本理念

ローカルテクノロジーを活用した農工の連携・融合等による新産業の創出・育成を通じ、本県の産業の活性化、県土の均衡ある発展を図ります。

基本方針

《産業クラスターの手法による地域産業の振興》

- 地域の企業等が、大学、研究機関、支援機関等の関係機関と連携
- 農作物の生産管理技術、グリーンエネルギーやバイオマス資源、機能性を追求した加工・製造等のシーズなどを活用
- 新事業を創出・育成し、これらをクラスターとして形成

戦略プロジェクト

① 新生産システム・グリーンエネルギー活用型生産プロジェクト

農産物生育管理、新エネルギー、バイオマス資源の多角的利用技術の開発・導入等による新たな生産システムの確立を目指す

② グリーンフード&テクノロジープロジェクト

県産農林水産資源が有する生理機能を研究し、機能性食品の商品化や省力・操作性に優れた農業機器等の研究開発・企業化の取組の強化

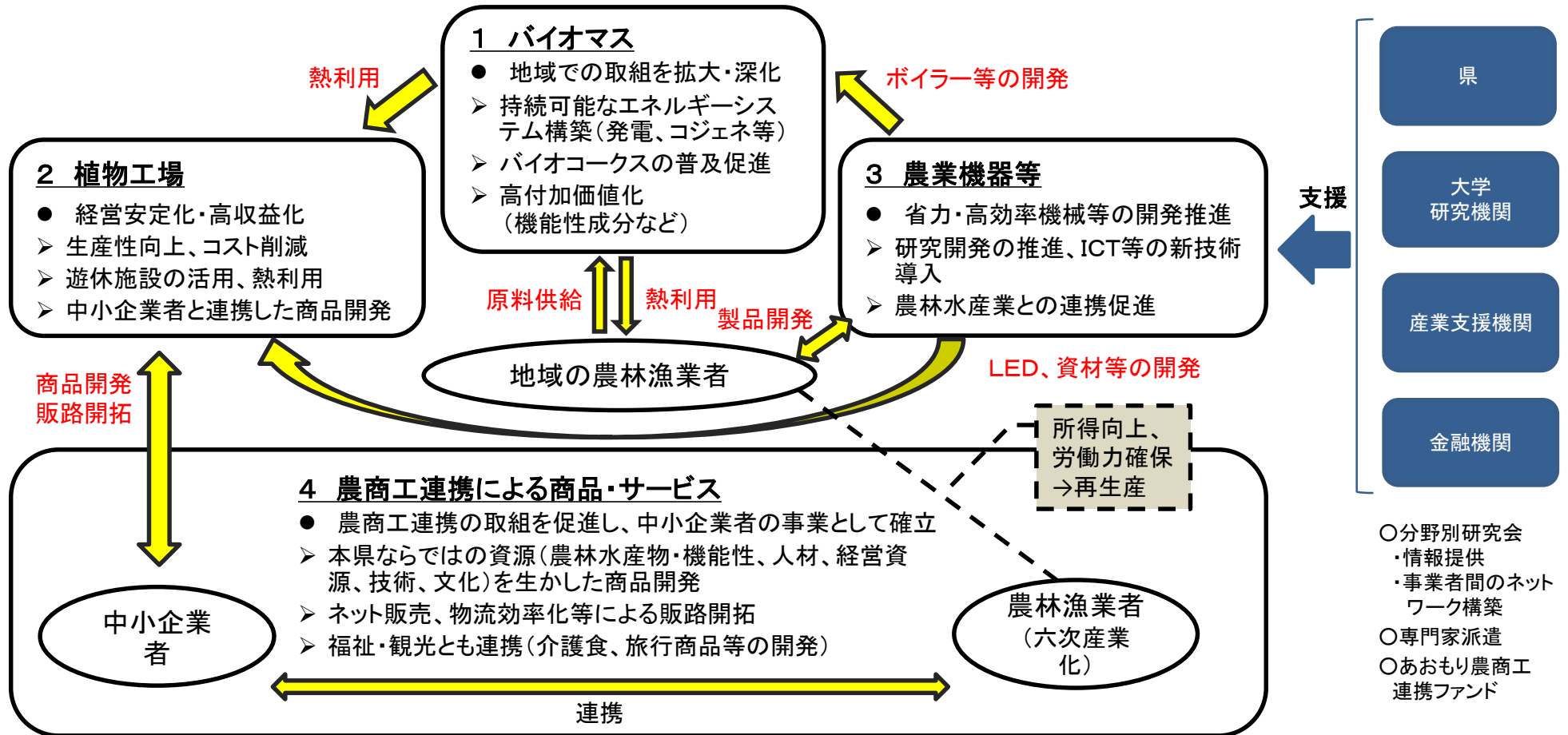
③ 戦略的流通・販売システム活用プロジェクト

食産業や流通産業と連携した新事業の展開やweb市場等を活用した販路開拓を促進



あおもり農商工連携推進プラン 概要図

～ 各分野を相互に関連付け・融合させながら、地域の中小企業等の連携を推進 ～



1 バイオマス高付加価値化の促進

●県内のバイオマスを効率的に安定して調達できる体制を整え、バイオマスを高付加価値製品に利活用する取組を促進するため、バイオマスの収集運搬・原料調達体制モデルを構築実証した。

□委託先（青森バイオ技研株式会社） 1件

2 「第4回国際次世代農業EXPO」への出展

（1）「第4回国際次世代農業EXPO」の概要

農業法人や農協等の農業機器のユーザーや農業参入検討企業及び植物工場事業者等の関係者が一堂に会する当該展示会において、県内企業が持つ技術・製品を発信し、新たなビジネスマッチングを促進した。

期 間：平成29年10月11日(水)～13日(金) 3日間

会 場：幕張メッセ

来場者：23,981人

出展事業者：5社



	事業者名	所在地	主な出展商品
1	(株)カロリアジャパン	十和田市	長いもの成分測定装置
2	(株)JWP	平川市	シーカメラ(圃場の監視等)
3	(株)アイティコワーク	八戸市	アグリレジ(産直専用ボスレジ)
4	伝農アシスト(株)	八戸市	ITによる若手就農者サポートシステム
5	(株)ササキコーポレーション	十和田市	木質バイオマスボイラー

3 セミナーの開催

「あおもり農商工連携推進プラン」(平成28年2月策定)に掲げる重点分野(バイオマス、植物工場、農業機器等、農商工連携による商品・サービス)における業界の動向や先進事例等に関するセミナーの開催を通じて、農商工連携による事業化の促進につなげる。

名 称		開催日・場所	参加者数	内 容
あおもり農商工連携推進セミナー(あおもり植物工場研究会及びあおもりバイオマスビジネス研究会)	第1回	平成29年11月21日 (アップルパレス青森)	58名	■ バイオマスを活用した高付加価値農産物の生産について 講師: 銀座農園株式会社 代表取締役社長 飯村 一樹 ■ 植物工場における黒字化の条件、今後のビジネスチャンス 講師: 一般社団法人イノプレックス 代表理事 藤本 真狩 ■ 八戸バイオマス発電事業の概要 講演: 八戸バイオマス発電株式会社 代表取締役 山本 稔之 ■ 小規模木質バイオマスビジネスの現状と西目屋村の取組みについて 講師: 西目屋薪エネルギー株式会社 代表取締役 虎澤 裕大
	第2回	平成30年2月2日 (ウェディングプラザ アラスカ)	63名	■ AI・IoT・BigDataを活用したスマート農業への取組み 講師: ベジタリア株式会社 代表取締役 小池 聡 ■ 省エネ型屋内農場システムPU TFARMについて 講師: プランツラボラトリー株式会社 代表取締役 湯川 敦之 ■ 牧之原バイオガス発電所の始動と今後の展開 講師: アーキアエナジー株式会社 代表取締役 植田 徹也
あおもり食産業推進セミナー ※総合販売戦略課と共催		平成30年1月25日 (青森国際ホテル)	87名	■ 食品安全に関わるマネジメント ～HACCPとJFS規格の概要について～ 講師: 一般財団法人食品安全マネジメント協会 術本部長 窪田 英俊 ■ 新たな食品表示制度への移行について 講師: 青森県農林水産部食の安全・安心推進課 主幹 種市 順司 ■ HACCP制度化に関する現在の状況について 講師: 青森県健康福祉部保健衛生課 主査 石井 昌史
あおもり食産業推進フェア(新商品お披露目会 & 知財実践セミナー) ※総合販売戦略課及び新産業創造課と共催		平成30年3月22日 (ホテル青森)	300名	■ 知財実践セミナー ■ 加工技術セミナー ■ 新商品お披露目会・商品づくり相談 ○ 県、関係機関等の支援による新商品の展示 ○ 商品開発、加工技術、支援制度等に関する相談



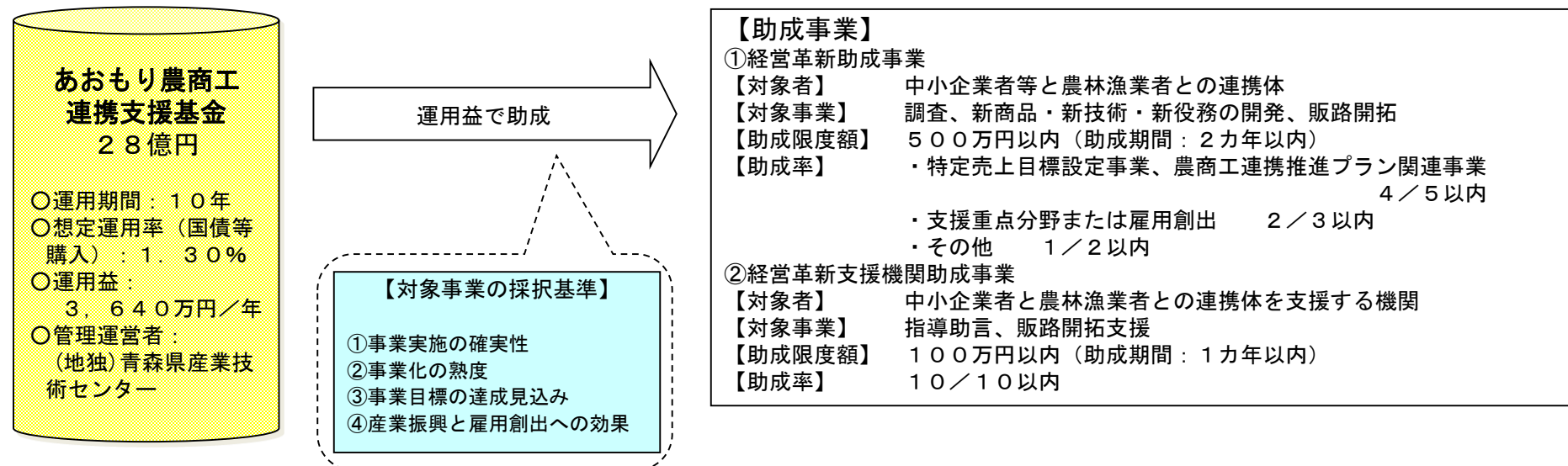
4 あおもり農商工連携助成事業(平成21～31年度)

総額28億円のあおもり農商工連携ファンドを造成し、農林漁業者と中小企業者との連携による新商品開発等に対して助成。

■管理運営:(地独)青森県産業技術センター(本部企画経営室)

※支援機関=経営革新支援機関助成事業の略

あおもり農商工連携支援基金(農商工連携ファンド)の概要



<H21-H28の支援例>



プロテオグリカン
のむヨーグルト



おやさいクレヨン
Vegetabo
～Season3



kimoriCIDRE
(キモリシードル)



最中で包んだ
嶺きみスープ

《農商工連携による産業振興》

平成29年度の実績

事業区分		事業名	中小企業者	農林漁業者
H29 上期 採択	経営革新助 成事業	青森県産黒にんにくを活用したサプリメント開発及び販路開拓事業	(株)ファーストインターナショナル	(株)松山ハーブ農園
		ハーブ加工品及びぷちぷよ(ミニトマト)加工品の商品化開発事業	青森アグリ(株)	(同)徳差ファーム
		「あおり藍」を用いた農業代替エキスの開発	あおり藍産業協同組合	農事組合法人羽白開発
		特産品ながいものながいもエキス商品開発及び販路拡大事業	ミリオン(株)	十和田おいらせ農業協同組合
		ホタテ養殖残渣からの悪臭を処理する装置の開発及び普及	(株)技衡	石岡 雄一
		今別産天然海藻を原料とした商品開発と販路開拓	(同)婁月海宝	竜飛今別漁業協同組合
		発泡性日本酒(スパークリング日本酒)の商品開発と販路開拓	八戸酒造(株)	平館 昭彦
		県産じゃがいも・毛豆を活用した高付加価値商品(じゃがいもスープ・毛豆スープ)の商品開発及び販路開拓	(株)栄研	(株)黄金崎農場 ありま農園
		「おやさいクレヨンおやつ」開発・販路開拓事業	mizuiro(株)	(有)白神アグリサービス
		青森県新品種ながいも「つくなが」の商品開発とプロモーション事業	(株)エスイージー	Michiki農園
		りんごソフト・りんごシェイクを日本全国に広める事業	(株)フォーシーズン	福士農園

事業区分		事業名	中小企業者	農林漁業者
H29 下期 採択	経営革新助 成事業	産地の見える化をした農作物を使用しての商品開発	(株)木村食品工業	津軽みらい農業協同組合
		「紅の夢」(赤い果肉のりんご)を使った加工食品の開発	(有)藤崎冷蔵商会	タムラファーム(株)
		赤肉りんご「紅の夢」を活用したスカルプケア商品の企画開発事業	(株)ルビー・ディー	くらや町田農園
		青森産カシスの圧搾残渣を利用した商品開発及び販路開拓	(株)お菓子のみやきん	七戸まこと農場
		トマトのL-グルタミン酸含量非破壊測定装置の開発及び販路開拓	(株)カロリアジャパン	七戸町特産品生産販売 促進協議会
		横浜町の菜の花を活用した漬け物シリーズの商品開発	(有)すぎやま	沢谷 政夫
		県産農産物(リンゴ、カシス、嶽きみ等)を原料とした、砂糖を使わない低糖質、低カロリーのと菓子の開発と販路の開拓	かねご製館(株)	(有)ANEKKO
		深浦サーモン販売促進事業	(株)あおり海山	深浦漁業協同組合
		八戸港産サバを使った新商品開発及び販路開拓	(株)マルヌシ	八戸みなと漁業協同組合
		ガマズミを活用したサイダーの開発及び販路開拓	(株)佐瀧本店	三戸町ジョミ生産組合
		地元産えご草を活用した新商品開発と販路開拓事業	(株)あおり白神水産	深浦地域漁村女性の会

平成29年2月に策定した「あおもり農商工連携推進プラン」に基づき、同プランで定めた重点分野に取り組み、農商工連携産業の競争力強化を図ることにより、関連産業の集積を促進する。

【現状と課題】

県では、平成18年に策定した「農工ベストミックス構想」に基づき、農工連携による新産業の創出・育成に向けて取り組んできたところ。

これらを踏まえ、平成29年2月に「あおもり農商工連携推進プラン」(事業期間平成29年度～平成33年度)を策定し、引き続き農商工連携による産業振興を一層推進していくこととしている。

<重点分野(方向性・課題)>

- ① バイオマス(発電等の取組拡大、高付加価値化)
- ② 植物工場(経営安定化・高収益化)
- ③ 農業機器等(省力化・高効率化機械等)の開発推進
- ④ 農商工連携による商品・サービス(本県ならではの資源を活用した商品開発等の一層の推進)

【事業内容】

概要

1 農商工連携成長産業化支援事業(5,474千円)

【取組1】

農商工連携に係る普及啓発等のためのセミナー等の開催

【取組2】

専門家派遣事業

【取組3】

農業機器等に関する全国規模の展示会への出展支援



2 あおもり農商工連携支援基金(農商工連携ファンド)

総額28億円のあおもり農商工連携ファンドを造成し、農林漁業者と中小企業者との連携による新商品開発等に対して助成。

(平成21～31年度)

・助成率2分の1～5分の4

・助成額500万円以内

管理運営:(地独)青森県産業技術センター(本部企画経営室)

【事業効果】

「あおもり農商工連携推進プラン」の推進

① バイオマス

⇒高付加価値化等による本県農林水産業・商工業の活性化

② 植物工場

⇒生産性向上等による雇用の確保・増加や農業の産業化

③ 農業機器等

⇒本県農林水産業の振興、製造業の経営基盤強化

④ 農商工連携による商品・サービス

⇒農林漁業者の所得向上、地域の企業等の売上向上



- 雇用の創出
- 地域経済の活性化

目的

本県の豊富な地域資源と県内企業が持つ技術を最大限に活用した商品開発の促進、商品の付加価値を効果的に訴求する先導的事例の創出により、地域資源活の活用による産業振興を図る。

現状・課題

- 製造業は5年間で約200社(12%)減少。
- 豊富な地域資源や独自技術をビジネスに生かしきれていない。
- 東京オリンピック・パラリンピックの開催効果の獲得に向けて、豊富な地域資源と企業が持つ技術力などの強みを活かした商品開発等を強化する必要がある。
- 本県工芸品等の魅力をオリパラ大会関係者や国内外観光客が多く訪れる首都圏等で発信し、販路の拡大につなげる好機となっている。

事業内容

【効果的に訴求する事例の創出】

1 地域資源バリュー・イノベーションモデル構築推進事業(8,729千円)

地域資源を活用した商品や技術について、価値や優位性の明確化や新たな用途、異なる商品の組み合わせ、異業種・大手企業との連携などによる付加価値向上や情報発信などの先導的事例（バリュー・イノベーション）の創出に取り組む。

- (1) 地域資源バリュー・イノベーションモデル企画及び構築事業
バリュー・イノベーションモデルの構築を進めるとともに、全国展開するメーカー、製造小売等を対象として、地域資源に関する連携ニーズを把握し、提案活動とマッチングを実施する。
- (2) 地域資源活用モデル普及事業
地域資源活用モデル構築事業の成果に関するセミナーを開催する。

【地域資源のポテンシャルと県内企業の技術を生かした商品開発】

2 発酵技術を活用した産業振興事業(5,254千円)

農林水産物の付加価値を健康面で高める発酵技術に着目し、本県に蓄積された発酵技術を活用した商品開発の促進を通じて食品製造業の振興を図る。

- (1) 発酵技術を活用した地域資源ビジネスモデルの確立
市場動向や消費者ニーズを踏まえ、他地域と差別化した本県独自のビジネスモデルの確立に取り組む。
- (2) 発酵食品分野における商品開発の促進
産業技術センターと連携し、本県由来の微生物を活用する技術の実用化を推進するとともに、発酵食品の市場動向に関するセミナーを開催する。

事業効果

○地域資源や地域特性を生かした魅力あふれる「しごとづくり」の実現

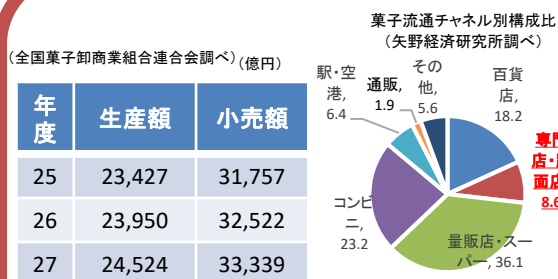
○地域経済の活性化

○東京オリンピック・パラリンピック開催効果の獲得

目的

消費者の健康志向が高まっている中、伝統とトレンドの中から地域で生まれるスイーツ(菓子)に着目し、青森ならではの健康志向スイーツの商品開発と販路開拓に向けた取組を推進し、菓子製造分野における産業振興と魅力あふれる「しごとづくり」につなげる。

現状・課題



- ◆全国的なスイーツブームを背景に、スイーツ(菓子)の国内市場は拡大を続けている。
- ◆青森県には、地域に根差して、優れた商品を生産する多くの菓子店が存在し、地産地消の原動力の一つとなっている。
- ◆近年はコンビニにおけるスイーツコーナーが充実するとともに、全国チェーンの地方展開が進み、県内の菓子業界の脅威となっている。
- ◆消費者の健康志向が高まっている中、市場ニーズに対応した商品開発を進めていく必要がある。
- ◆県内の地域資源を活用し、青森ならではの商品を開発し、差別化を図る必要がある。

事業内容

【取組1】

「あおもり健康志向スイーツゼミナール」の設置・運営 【5,412千円】

県内菓子等事業者及び消費関係者(施設関係者等)で構成する「あおもり健康志向スイーツゼミナール」を設置する。

ゼミナールでは、市場ニーズをはじめ、技術シーズや地域資源の活用可能性などについて調査検討を行い、今後の商品開発に向けた分野別の基本コンセプトや、業界が一丸となったキャンペーンなどを提案する。

<開発イメージ>

- 健康スイーツ(カシス、りんご、ベリーなどの地域資源活用)
- 寝る前スイーツ(低カロリー)
- 誰でもスイーツ(低糖質、アレルギー対応) など

【取組2】

健康志向スイーツモデル普及事業 【2,498千円】

県内事業者による健康志向スイーツの取組事例を広く紹介し、県内事業者の参入促進につなげる。

※2年度目は、首都圏における展示会等に出展し、あおもり発の健康志向スイーツのPRを行う。



ex.低糖質どらやき

事業効果

青森ならではの
商品の開発

健康志向に対応
した商品開発

菓子製造分野
における
産業振興

地域資源や地域特性
を生かした
魅力あふれる
「しごとづくり」

○中小企業経営力向上支援事業

【目的】

県内中小企業（食品製造業等）等を対象に、首都圏で開催される展示商談会への出展を支援し、販路拡大につなげる。

【事業期間】

平成28年度～平成29年度（2年間）

【事業概要】

1. 事前研修の実施

県内事業者を対象として、販路開拓の手法及び各種媒体の効果的な活用方法等、商談力・発信力強化のための研修を実施。

2. 展示商談会への出展支援

首都圏で開催される大規模展示商談会に「青森県ブース」を設置し、県内中小企業等の出展・商談を支援。

2月 スーパーマーケット・トレードショー2018
（国内最大級）

3月 FOODEX JAPAN2018
（アジア最大級）

※「A!Premium」輸送サービスと連携（港湾空港課）

3. 事後研修の実施

展示商談会開催後、契約取引実現のための商談の進め方等について、出展者ごとに専門家によるアドバイス（取得名刺の分析・活用、見込み客への対応方法等）を実施。

出展者（スーパーマーケットトレードショー2018）

34事業者

1	桃川（株）	18	（有）サンマモルワイナリー
2	（株）ヤマダイ	19	（一財）深浦町食産業振興公社
3	（株）新日本青果	20	（株）ヤマヨ
4	田子町ガーリックセンター	21	丸大堀内（株）
5	（株）あおもり北彩館	22	（株）館山
6	（有）せいの農園	23	（株）グローバルフィールド
7	伝農アシスト（株）	24	（株）木戸食品
8	（株）佐瀧本店	25	合同会社ナチュール青森
9	南部町商工会	26	合同会社五代農産加工
10	（一財）新郷村ふるさと活性化公社	27	（有）エコネット
11	（有）柏崎青果	28	上北農産加工（株）
12	御菓子司 甘美堂	29	なんぶ農援（株）
13	（株）三福製麺	30	しみず食品（株）
14	（株）旨道	31	企業組合でる・そーれ
15	（株）エイ・ワンド	32	南部桑研（株）
16	（株）オダカネ	33	美保野グリーン牧場（株）※
17	（株）北彩屋	34	（株）那由多のりんご園※

出展者（FOODEX JAPAN 2018）

11事業者

1	（株）丸石沼田商店	7	（有）白神山美水館
2	ヤマモト食品（株）	8	（株）岡崎屋
3	タムラファーム（株）	9	六戸町
4	もりやま園（株）	10	三上農園※
5	かねご製館（株）	11	吉ざえもん農園※
6	（株）大竹菓子舗		

目的

東京オリンピック・パラリンピック開催効果の獲得に向け、県内企業が開発した加工食品について、消費者ニーズと小売業態の多様化に対応し、展示会やセレクトショップ等多様な販売チャネルを活用するとともに、消費者やバイヤーに商品の付加価値を的確にPRするための提案力を強化することにより、販路の拡大と商品力の向上につなげる。

【現状・課題】

- 東京オリンピック・パラリンピックの開催効果の獲得に向けて、首都圏等において、販路拡大につなげる必要があること。
- 食料品は消費者ニーズの多様化に伴い、セレクトショップが増加傾向にあり、地方のこだわり商品を売り込む絶好の機会であること。
- 本県の地域資源を活用した加工食品は、総じてその付加価値を明確に表現できていないこと。
- 小売業態が多様化する中で、商談の成約率の向上を図るためには、企業特性や商品特性を踏まえて、適切な販路を選択する必要があること。
- 他地域の商品との競争に勝つため、観的な評価や消費者ニーズを踏まえて、商品力の向上を図る必要があること。

【事業内容】

【取組1】商品提案力向上事業(6,593千円)

1. 販路指導・提案力向上セミナー
企業特性や商品特性に基づく、適切な販売チャネルの選定や提案力の向上に向けたセミナーを開催。
2. 販路開拓の支援
 - (1) 販売チャネルのコーディネート
専門家による相談会を開催し、適切な販売チャネルをコーディネート。
 - (2) テスト販売及び展示会への出展
 - ① セレクトショップ（首都圏）
食品系セレクトショップにおけるテスト販売を実施。
 - ② スーパーマーケット・トレードショー2019（幕張メッセ）
主に国内スーパーを対象とした同展示会において、市町村及び産業支援機関とともに青森県ブースを出展。
 - (3) フォローアップ
テスト販売及び展示会における成果を踏まえた専門家による個別指導を実施。

【取組2】新商品マーケティングサポート事業(1,200千円)

県庁職員をモニターとした「青森県庁商品モニターバンク」を創設し、県内企業が開発した加工食品のモニタリングを行うとともに、その結果をフィードバックする仕組みを構築する。

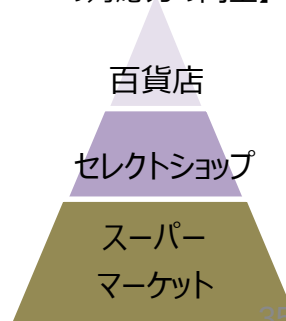
【事業効果】

- 県内企業の提案力の向上
- 地域産品の商品力の向上
- 地域産業の活性化



- 地域経済の活性化
- 東京オリンピック・パラリンピック開催効果の獲得

【多様化する販売チャネルへの対応力の向上】



《伝統工芸産業の振興》

伝統工芸品の指定及び伝統工芸士の認定

(1) 伝統工芸品の指定

【目的】

青森県の歴史と風土に培われ、県民の生活の中で育み受け継がれてきた工芸品を、青森県伝統工芸品として指定することにより、その声価を高め、工芸品の製造に携わる事業者等の製造意欲の高揚及び工芸品産業の育成・振興を図る。

【指定要件】

1. 主として、日常生活の用に供される工芸品であること。
2. その製造工程の主要部分が手工的であること。
3. 伝統的な技術又は技法により製造されるものであること。
4. 原材料が伝統的に使用されてきたものであること。
5. 当該工芸品が、概ね50年以上の歴史を有するものであること。

【指定件数】

32工芸品70製造者(平成30年6月現在)



▲平成29年度 伝統工芸品指定
南部花形組子 (館タテグ工芸 館功氏)



▲平成29年度 伝統工芸士認定
中村禮子氏 (南部菱刺し)

(2) 伝統工芸士の認定

【目的】

県指定伝統工芸品の製造に従事している技術者のうち、高度の技術・技法を保持する者を県伝統工芸士と認定することにより、社会的な評価を高めるとともに、従事意欲と技術の向上を図り、伝統的技術又は技法の指導者として、工芸品の振興、後継者の育成と伝統工芸品の次世代への継承に寄与する。

【認定要件】

1. 青森県内に居住していること。
2. 伝統工芸品の製造の実務経験が12年以上あり、かつ現在もその製造に従事していること。
3. 伝統工芸品の製造に関する高度の技術又は技法及び必要な知識を有し、その維持又は発展に努めていること。
4. 後継者育成に熱意のある人。
5. 青森県伝統工芸士にふさわしい高潔な人格を有すること。
6. 経済産業大臣認定の伝統工芸士でない人。

【認定件数】

59名(平成30年6月現在)



《伝統工芸産業の振興》

伝統工芸品等首都圏マーケティング事業（平成29年度実施状況）

（１）事業説明会の開催

本県工芸品製造者等を対象に、事業説明をするとともに消費者ニーズを捉えたモノづくりと、作り手自ら情報を発信することの大切さをテーマにしたセミナーを併催し、事業参加者を広く募集した。

講師 メイド・イン・ジャパン・プロジェクト株式会社
代表取締役 赤瀬 浩成 氏

①八戸会場

開催日 平成29年6月7日（水）

参加者 19名



②弘前会場

開催日 平成29年6月8日（木）

参加者 21名

③青森会場

開催日 平成29年6月8日（木）

参加者 10名



（２）参加事業者の決定

県内で工芸品を製造・販売している事業者を公募した結果、昨年度からの継続参加者及び新規参加者合わせて18者の参加を決定した。

（３）テストマーケティングに向けた個別指導と商品選定

参加事業者を対象に、専門家による首都圏の消費者ニーズに基づく個別指導を実施し、各事業者の商品をブラッシュアップした上でテスト販売に出品する商品を選定した。

①第１回 個別指導及び商品選定

開催日 平成29年7月5日～7日

②第２回 個別指導及び商品選定

開催日 平成29年8月29日～31日



③第３回 商品選定会

開催日 平成29年10月16日



《伝統工芸産業の振興》

伝統工芸品等首都圏マーケティング事業(平成29年度実施状況)

(4) テストマーケティングの実施

①テスト販売「青森展」概要

外国人観光客も多く訪れる首都圏の工芸品販売店において
12月の1ヶ月間、テスト販売及びPRを行った。

- ◆期間 平成29年12月1日～31日
- ◆場所 東京ミッドタウン ガレリア3階「THE COVER NIPPON」
- ◆出品商品 18事業者による約100商品
- ◆売上点数 約300点
- ◆売上総額 3,323千円
- ◆来場者数 15,076人
- ◆PR方法 PR冊子の作成・配布
東京ミッドタウン館内モニターでの情報発信
店舗HPによる情報配信



▲店内POP



▲PR冊子



▲テスト販売「青森展」の様子



《伝統工芸産業の振興》

伝統工芸品等首都圏マーケティング事業(平成29年度実施状況)

(4) テストマーケティングの実施

②マーケティングイベント「青森に出会う。」の実施

12月のテスト販売期間中、首都圏消費者と出品者が交流する(出品者から商品PRを行い、消費者の意見を直接聴く)機会を設けた。

◆開催日 平成29年12月12日

◆場 所 東京ミッドタウン ガレリ73階「THE COVER NIPPON」

◆参加者 首都圏消費者 30名
出品者 10事業者12名



▲イベントチラシ



▲マーケティングイベントの様子

(5) フィードバック研修会の開催

テスト販売の分析結果を参加者にフィードバックするとともに、さらなるブラッシュアップに向けてのアドバイスを実施した。

◆開催日 平成30年2月14日～15日

◆参加者 15事業者



▲フィードバック研修の様子

1 伝統的工芸品振興事業

30年度当初予算額 410千円

県内の伝統工芸の振興を図り、産地の自立的発展を促進するため、伝統工芸品のPRに資する各種施策を実施するとともに、関係団体が行う伝統工芸振興事業に対して支援を行う。

- (1) 青森県伝統工芸指定審査会の運営、伝統工芸品振興を図るための担当者会議等への出席、県内関係者との連絡調整
- (2) 伝統的工芸品月間展示事業の実施等、関係団体が行う伝統工芸振興事業への支援

2 青森伝統工芸士認定事業

30年度当初予算額 652千円

県内で活動している高度な技能・技術を有する人材を県が認定し、適切に評価し、従事意欲と技術の更なる向上を図り、本県の伝統工芸品産業を担う人材の育成を図る。

- (1) 青森県伝統工芸士の認定（認定証の交付、伝統工芸士のPR）

3 あおもり工芸品産業振興事業（平成30～31年度）

30年度当初予算額 6,980千円

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、同大会関係者及び国内外観光客が訪れる首都圏等において、本県工芸品等の価値と魅力を多面的かつ強力に発信し、インバウンド・国内観光客等の消費者とバイヤーの両面で販売促進事業を展開することで、工芸品産業の振興を図るとともに、東京オリンピック・パラリンピック開催効果の獲得につなげる。

あおもり工芸品魅力発信・向上事業

(1) 消費者を対象とした取組

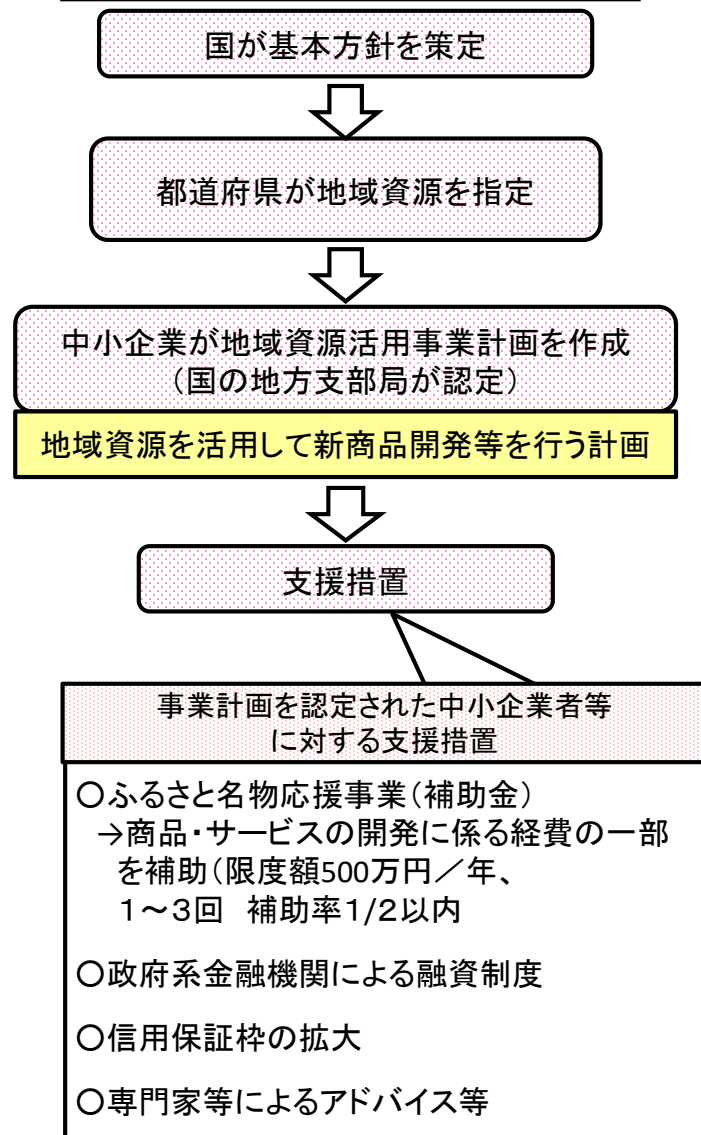
大会関係者や国内外観光客等が多く訪れる首都圏及び東北の拠点都市に所在し、集客が見込まれる店舗等において、あおもり工芸品の企画展（フェア）を開催することで、本県工芸品の価値と魅力を発信する。

(2) バイヤーを対象とした取組

外国人観光客需要を見据え、首都圏で開催される国際的な見本市へ青森県ブースの出展及び出展前後に勉強会を行うことで、商品開発力を向上させるとともに、国内外のバイヤーをターゲットに本県工芸品の価値と魅力を発信する。

《中小企業地域資源活用プログラムによる支援》

中小企業地域資源活用プログラム



「地域資源」とは

- (1) 地域の特産物として相当程度認識されている農林水産物や鉱工業品
- (2) 地域の特産物である鉱工業品の生産に係る技術
- (3) 文化財、自然の風景地、温泉その他の地域観光資源として相当程度認識されているもの

青森県の地域産業資源 【平成30年4月1日現在】

農林水産物	鉱工業品	観光資源	合 計
123	89	119	331

東北各県の計画認定件数 (平成30年4月1日現在)

東北地域合計	153件
青森県	39件
岩手県	17件
秋田県	16件
宮城県	26件
山形県	35件
福島県	20件

《中小企業地域資源活用プログラムによる支援》

地域資源活用事業認定計画認定事業者

認定年度	事業者名	活用する地域資源
19	ブナコ漆器製造(株)(弘前市)	ブナ材
20	(株)ディメール(八戸市)	サバ
	(株)スパン・ライフ(八戸市)	にんにく
	十和田おいらせ農業協同組合(十和田市)	にんにく
	(有)十和田乗馬倶楽部(十和田市)	乗馬場
21	(有)田向商店(青森市)	サメ
	ミリオン(株)(青森市)	ながいも
	青い森国土保全協同組合(つがる市)	杉
22	(有)ゆめりんご(弘前市)	岩木山
	(有)蔦温泉旅館(十和田市)	蔦温泉
23	(有)イシオカ工芸(弘前市)	津軽塗
	(有)アラコウ水産(平内町)	ホタテ・ナマコ
	農業生産法人合同会社津軽ぶどう楽園(鶴田町)	スチューベン(ぶどう)
	(株)駒嶺商店(風間浦村)	あんこう
24	あおもり藍産業協同組合(青森市)	藍
	三浦醸造(青森市)	りんご
	熊谷食品(株)(弘前市)	津軽の漬物
	農業生産法人四季菜にんにく(株)(三戸町)	にんにく
	(株)菊駒酒造(五戸町)	青森県の日本酒
25	(株)今井産業(平川市)	りんご、杉材

認定年度	事業者名	活用する地域資源
25	(株)ツガルサイコー(黒石市)	お山のおもしえ学校
	(有)柏崎青果(おいらせ町)	ごぼう
	(有)村口産業(風間浦村)	青森ヒバ
	なんぶ農援(株)(南部町)	妙丹柿
26	つがるりんごセラミド(株)(弘前市)	りんご
	(有)サンマモルワイナリー(むつ市)	りんご
	河野商店(むつ市)	アピオス
27	(有)十和田乗馬倶楽部(十和田市)	流鏑馬
	(有)島木材工業(大間市)	青森ヒバ
	日本ハルマ(株)(弘前市)	りんご
	山野りんご(株)(弘前市)	りんご
	(株)北彩屋(むつ市)	ニジマス、イカ
28	(株)エビサワ農園(東北町)	ヤーコン、にんにく
	Yプロジェクト(株)(大間町)	あわび、イカ、大間マグロ、青森ヒバ等
	(有)こめいち奥本商店(佐井村)	ナマコ
29	(有)二階堂(青森市)	藍、りんご、カシス
	ブナコ(株)(弘前市)	ブナコ
	(株)ふかうら開発(深浦町)	クロマグロ、雪中にんじん、白神山地 等
	(株)天の川(青森市)	ブラックベリー